

情報共有(2枚) 福島事務所定例レクメモ(9^回)

(非管理用)

東京電力株式会社

新規テキストドキュメント.txt
福島事務所、本日(4/26)9時の定例レク概要です。

4/26(火) 9時定例レク概要

<説明内容>

①プラント関連パラメータの状況報告(4月26日 6:00現在)【口頭説明】

②プラント状況・作業スケジュールについて【口頭説明】

- ・各号機の原子炉への注水について
- ・各号機のT/B地下階、トレンチのたまり水の水位について
- ・1号機窒素封入について
- ・1号機フラッディングの検討について
- ・2, 3号機使用済み燃料プールへの冷却浄化系ラインからの注入について
- ・4号機使用済み燃料コンクリートポンプ車からの注水について
- ・集中廃棄物処理施設への廃液受け入れ作業について
- ・飛散防止剤の樹脂散布作業について
- ・リモートコントロール重機によるガレキの撤去について
- ・1, 2号機~5, 6号機間連絡電源ケーブル布設作業について

<主な質疑>

Q. 1号機の注水量はどれくらい増加させるのか。

A. 従来の約6m³/h→最大14m³/hまで増やし、パラメータの動向を確認し、また6m³に戻す。

Q. 水素の発生量が増えるのではないか。

A. 窒素を封入しているため問題ない。

Q. 今回は、意図的にフラッディングをすることにしたのか。

A. 格納容器からどれくらいの水が漏れているか、現場の状況を確認するために実施する。また、ロボットも使用し建屋内の状況を確認していく。

Q. ロボットで格納容器の漏えい箇所がみられるのか。

A. 建屋内の電線の貫通部等からの漏えい状況を確認する。

Q. 一時的とはどれくらいの時間か。

A. パラメータの状況による。

Q. 本日、ロボットが建屋に入る時間は。

A. 時間については未定。

Q. 格納容器に直接水を入れるオプションもあるのか。

A. 今後の状況によるため不明。

Q. 想定される変動は。

A. 流量をあげるために水位はあがることも考えられるが、挙動については分からない。

Q. 耐震性の確認は。

A. 燃料上部まで水を満たした状態で、耐震性の概略評価を実施する。

Q. フラッディングのメリット、デメリットは。

A. メリットは格納容器ごと冷却すること。デメリットというよりは、今後のリスクの確認としては、たまり水の水位の変化(上昇)、水の漏えい、格納容器の耐震性等がある。

新規テキスト ドキュメント.txt

- Q. 影響があった場合、損傷を直してから作業を行うのか。
A. 評価をして判断する。
- Q. 電源工事のメリットは。
A. 6. 9 kVから66 kVへの工事により、電気の容量を増やすことができる。また、元々66 kVで送電されていたため、従来使用していた保護装置が使用できることとなり、送電線事故を考えたときに、発電所設備への波及事故を防止できる等信頼性が向上する。また、今後、水の浄化装置等の機器が増えていくことを踏まえると、容量を増やしておきたい。

以 上

情報共有

(1枚)

→ 宮邸班・NISA班 展 ← プレス対応

→ NISA会議室 お渡し角みです。

東京電力株式会社

新規テキスト ドキュメント.txt

福島事務所 本日(4/26) 16時の定例レク概要です。

4/26(火) 16時定例レク概要

<説明内容>

①プラント関連パラメータの状況報告(4月26日 12:00現在)【口頭説明】

②作業状況について【口頭説明】

- ・1号機原子炉内のロボット調査について
- ・3号機使用済燃料プールへの注水について
- ・飛散防止剤の樹脂散布作業について

<主な質疑>

Q. 本日の1号機原子炉建屋内のロボットの調査は、予定したものが全て終了したことですか。

A. 本日予定したものについては全て終了した。

Q. 結果はどうだったのか。

A. 有意な漏えいはなかった。

Q. ロボットでの漏えい箇所の調査が終了したのであれば、明日から予定通り注水量を増やすことですか。

A. その方向になると思われるが、最終的に決定したとの連絡はない。分かり次第お知らせしたい。

Q. 映像は提供してもらえるのか。

A. 本日中に渡せるかは分からぬが確認する。

Q. 1号機原子炉建屋内でのロボットの調査経路は。

A. 詳細の報告はないが、建屋の北側から入ったと思われる。

以上